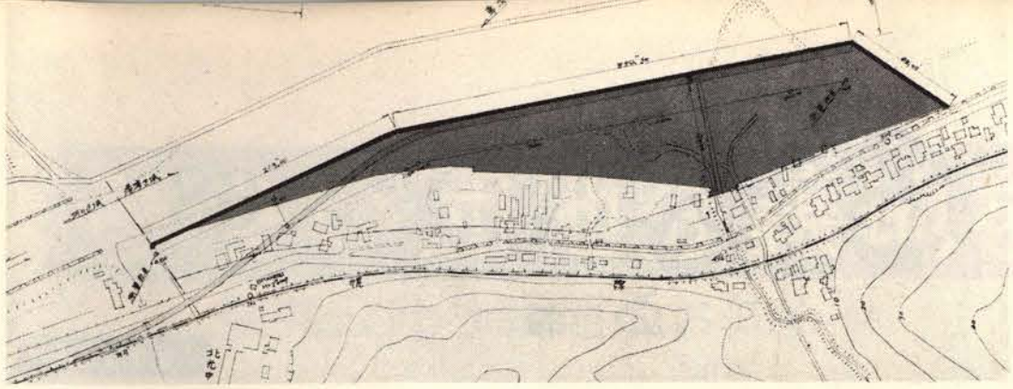
塩見町に石油基地

海岸を四万五千平方メートル埋立て



市内塩見町地区の海岸を埋めたて、約四万五千平方㍍の第二の石油基地造成がことしから進められます。

これは、最近道北地区での石油製品の需要が急激に増え、このため留萌港経由の増加が見込まれるため、すでに、大町地区には、一万九千平方㍍の石油基地が完成、出光興産、日本石油の各油槽所が建設されているが、塩見地区の土地造成が完成すれば、モービル石油、共同石油、昭和石油ゼネラル石油などの油槽所が建設されることになっています。

土地造成の行なわれるところは、留萌川導流堤にそって留萌川の川口から約五百七十㍍に及ぶ海岸で、留萌川導流堤から六㍍のところまで平行に埋めたてる。

埋立地は、全部を鋼矢板式上部連節コンクリート張護岸とし、高さ二、五㍍にする。

また、この埋立てには、造成予定地の切土と、留萌川の浚渫によって生れた土砂でまかない、約四万五千六百三十七平方㍍の土地を造成する。

この工事のため、市ではすでに、臨海土地造成臨時企画室を設け、準備が進められており、春を待って、四月から着工、明春三月までには完成する予定。

なお、この土地には、あらたに鉄道路線が石油輸送のため敷かれることになっています。

いらっしゃいませ

市庁舎に受付　毎日係長が交代で

市役所玄関に、案内窓口が設けられましたので、ご利用ください。

この案内窓口は、市役所玄関の右側に設けられたもので、三十九年市民相談室が開設されると同時に閉鎖されていたものです。

しかし、最近市役所の仕事も複雑、しかもその取り扱い事務も多くなったため市役所を訪れる市民の皆さんに便利なようにと、再開されたものです。

とくに、今度の案内は、市役所のことを、一番よく知っている各課の係長が毎日交代であたり、どの仕事をどこの課でしているかといった、担当課をおしえるほか、市役所への用件の中で比較的簡単なものは、担当課にまわさず、この案内窓口で処理することにしています。

いまのところ、利用する市民は、担当課をたずねるのがほとんどですが、とくに係長を配置した趣旨が生かされる利用のしかたを望んでいます。

実験の結果証明されています

届出はあなたの責任

選挙人名簿　20才になったら申し出を

ことしの7月には、参議院議員の選挙が行なわれますが、ことし成人となった人でも、選挙人名簿の登録申し出をしないと、選挙人名簿にものらず、したがって投票も出来ませんので、ご注意ください。

選挙人名簿は、いろいろな選挙の台帳となるもので、いくら20才になったからといっても、この名簿に登録申し出をしないと、選挙出来ません。

とくに、永久選挙人名簿の採用によって、いままでのように、家庭を訪問しての実態調査はしませんので、あくまでも申し出が必要です。

申し出をする方は、昭和43年3月1日までに20才になる人で、引き続き3か月以上、留萌に住所を持つ人です。

申し出は、いつでも受けていますが、今回の分は3月1日でしめ切られます。（名簿は3月と9月が、追加登録の時期です）

これから、満20才の誕生を迎える方は、その都度忘れずに申し出てください。　申出は市民課へ。

添加物から消費生活を守る

第1回生活者会議　講師（小樽商大教授）を迎え学習

会場を埋めたお母さんたち

消費生活をよりよいものにするため、学びそして考えてみようと、はじめての留萌市生活者会議が、一月二十六日、市内各階層の婦人を集めて開かれました。

この日集まったのは、市内にある生活学校三校のお母さんたちのほか、市内各婦人団体の代表者約八十名

消費生活の中で、最近いろいろな食品に色素、防腐剤などの添加物が入り、人体への影響が問題にされて来たため、昨年から留萌市生活学校でも取り上げ学習して来た結果、この問題は全市のお母さんたちに呼びかけて運動を進めなければと、生活者会議が開かれたもの。

この日、小樽商科大学教授斉藤要先生を講師に迎えまず、添加物の問題について勉強した。

この中で、今や食品への添加物は、ないものを探がすのが難かしい位ほとんどの食品に入っていること。

たとえば、毎日の主食である米には防虫剤が入り、ミカンには色素が入れられていることなど、その例は限りなく、厚生省が許可している添加物は三百四十九種類にのぼるのは平均約七十種類にのぼることでもわかる。

現在これらの添加物は、厚生省の基準により、人体への影響のない範囲内で入れられているが、各食品に入っている色素（タール系）は、生物実験により、発ガン性の要因になるといわれている。ということなどを学んだ。

この結果、さらに留萌保健所衛生課長をまじえて、話し合いを行ない、消費者の自己防衛策として、まずけばけばしい色のついた食品はさける。またインスタント料理でなく、手料理をすることによって、添加物の恐怖から避けることが出来るなどが、話し合われた

こんどの生活者会議は、はじめての会議であるだけに、その意識を高めるという点にあったが、出席した多くのお母さんたちが、あらためて添加物への深い関心を持ったことは成功だった。

しかし、添加物の問題は一種類の食品だけを食べる場合は問題がないとしても多種類の食品を食卓にのせている日常生活の中で、これら添加物の累積は、人体へどのように影響するのかなど、多くの問題点をかかえているだけに、今後さらに生活者会議などを開き、具体的に問題点を追求して行くことになった。

色素の入った食品を手にとって勉強

資料で講話する斉藤小樽商大教授

わたくしたちが口にするのは平均約七十種類にのぼることでもわかる。

現在これらの添加物は、厚生省の基準により、人体への影響のない範囲内で入れられているが、各食品に入っている色素（タール系）は、生物実験により、発ガン性の要因になるといわれている。ということなどを学んだ。

この結果、さらに留萌保健所衛生課長をまじえて、話し合いを行ない、消費者の自己防衛策として、まずけばけばしい色のついた食品はさける。またインスタント料理でなく、手料理をすることによって、添加物の恐怖から避けることが出来るなどが、話し合われた

こんどの生活者会議は、はじめての会議であるだけに、その意識を高めるという点にあったが、出席した多くのお母さんたちが、あらためて添加物への深い関心を持ったことは成功だった。

しかし、添加物の問題は一種類の食品だけを食べる場合は問題がないとしても多種類の食品を食卓にのせている日常生活の中で、これら添加物の累積は、人体へどのように影響するのかなど、多くの問題点をかかえているだけに、今後さらに生活者会議などを開き、具体的に問題点を追求して行くことになった。

生活学校連絡協議会を結成

市内にある三つの生活学校が、お互いに連絡をとりよりよい運動を進めて行こうと、留萌市生活学校連絡協議会が誕生しました。

協議会は、各学校からの代表十六名で構成されます

会長　福居順子
副会長　神力シゲ、大西キミ子
監事　加我恵美子　中森阿紀子
監事　山本はる江　棟方利子　飯田公子　本母信子　染川ノブ　花野節子　日下部恵子　竹内稔子　長野保子　村口初子　間瀬愛子　吉野良子　米谷修子　中駄登美子　井上縫子
書記
会計

千望会生活学校が誕生

市内沖見町にある千望会のお母さんたちにより、千望会生活学校が誕生した。

千望会は、沖見町の公営住宅団地にある町内会。

構成員は百四十名の主婦で、この誕生によって、市内の生活学校は三つになる

委員長　大西キミ子
副委員長　日下部恵子　竹内稔子